

# 北 河 内 会 報 自 然 愛 好 会

2023年8月30日 №.117

北河内自然愛好会発行

事務局：大東市野崎 3-7-7

西畑敬一 方

ホームページアドレス：<http://www.cc-net.or.jp/~ja3aeh/3shizen/3-3kitakawati.htm>

## 第 437 回例会「星田園地・春の植物」交野市 2023年5月13日

稲原良三

昨年秋に続き、春の星田園地を観察しました。今回のコースは天の川沿いの自然道から園地に入り、観察木道を通り、ピトンの小屋から星のブランコ、やまびこ広場に登りきって、園地から星田妙見へと下る予定でした。

京阪交野線の私市駅で集合時間になりますと天候の影響か参加者は少ないように思いました。しかし、いつもの明るく元気な会員の皆さんとお会いできて安心致しました。11名の参加者とスタートしてすぐに「そっちに行けば“ヤセウツボ”が見られるよ！」の呼び掛けの声で天ノ川沿いの遊歩道に行きました。そこは私市植物園に近い「水辺プラザ」で天の川を挟んで岸辺を整備された開放的スペースです。日当たりが良く風があるので白い穂をなびかせた“チガヤ”、そよぐピンクの“ユウゲシヨウ”や白～淡紅紫色の花を付けた“ニワゼキシヨウ”がよく似合う所です。花の中央部まで白い“セッカ（雪花）ニワゼキシヨウ”は珍しいとの説明でした（写真参照）。

「星の里いわふね」を過ぎると一転して木陰の多い天の川沿いの雑木林に入ります。この自然道は平地で歩きやすいのですが天の川の蛇行に沿っているため、思いの外時間がかかります。その間は高木から小低木まで草本やシダ、竹林もあり観察のしがいの有る場所です。森林鉄道風の木製歩道橋エリアを含めハイキング 50分コースを今回は 150分掛けての観察に堪能できました。特に高木で見る機会を逃していた①“キリ”の花、見る機会の少ない②ツチアケビ、奇抜な③カラムシとフクラスズメ等印象に残った感想を後に記します。駐車場で合流された長島さんと合わせて 12名で「ピトンの小屋」で昼食をしているとき、小雨が来そうなので少し管理道を上がって観察し、頃合いを見て私市駅へ折り返すことに変更しました。

◎観察した植物について（記録から漏れた植物が多々有ると思いますが）

記録数 158種（草本 48.木本 84.シダ 25.ムシ 1.・・・観察記録参照）を確認しました。記録名称はほぼ全て栗田さんに調査確認して戴きました。

### 1. キリの花の奥ゆかしさ

高木の枝先で咲く花は円錐状の紫の塊として遠目で見る機会は何度かありました。今回も川沿いの自然歩道に落ちた紫色花冠で桐の木の存在を確信して木立の隙間を縫って上を見上げ、枝先の方を探すのですがうまく見ることができませんでした。しかし川辺の上方に釣り鐘型の先が金魚鉢のつばのように反り返って下向きに咲く淡い紫の花の群れを見つけて観察できました。下向きに咲く花々を下から見る事が出来ました。下から見るとぐっと表情が豊かで若葉の緑と相まって品の有るすてきな花でした

### 2. カラムシとフクラスズメの威嚇動作

木道の手摺から内側にはみ出たカラムシの茎に7～8cm位のイモムシが逆立ちしたようにぶら下がっている。私たちが通り、カラムシに触れるとイモムシがツイストダンスを踊るようにお尻を振っている。何と滑稽な動き何だろう。（本当はおしりか頭かまで観察していません。）すかさず西畑さんが「おっ、フクラスズメや！」と威嚇動作についてとフクラスズメの食草がカラムシである事について又成虫は黒い蛾になることを解説して下さいました。それにしても派手で目立つ配色とツイストダンスは本当に鳥から身を守る効果が有るのか見てみたいものです。この配色はタイガースのユニホームを思い出す黄色と黒色の縞模様です。

### 3. ツチアケビ

葉緑素を持たない腐生植物で草本には珍しい姿、色、形をしています。星田園地では簡単な囲いと立派な銘板が作成されて大切にされて、毎年観察できそうです。秋にはウインナーソーセージのような立派な実を何本かぶら下げてくれるでしょう（写真参照）。

#### 4. 萌ゆる樹木と森の景観

秋の紅葉と 春の桜や萌え出る樹木の景観は何人もその美しさに感動を覚えると思います。

春から初夏にかけて山並みを眺めると濃い緑の中に表面を淡い黄緑色や僅かに白や赤みがかかったエリアがある。そのエリアは微妙に大きさ、形、色相が変わっていて、又地形も場所もそれぞれのため面白みが有る。今回、コースを変更し、“星のブランコ”を割愛したので緑の樹木から浮かぶその新芽の 萌ゆる色合いや花の色のエリア観察をあきらめていたが、帰りの木道からや私市駅近くの“水辺プラザ”から見る山並みに萌え出る樹木を見せてもらいました。

雨の中、安全に終えられて満足な一日でした。駐車場と私市で解散致しました。

感想後記：案内、解説指導戴きました皆さん、参加下さった皆様、有り難うございました。

◎参加者：栗田泰子、稲原ヒサエ、稲原良三、遠藤エチ子、鈴木永子、高見君江、田中光彦、田中英明、長島照文、中町苓子、西畑敬一、発ひとみ（以上 12 名）

#### ◎星田園地観察植物

名称	草本	木本	シダ	昆虫	名称	草本	木本	シダ	昆虫
チガヤ	○				イヌビワ		○		
ニワゼキショウ	○				ネズミモチ		○		
ユウゲショウ	○				タカノツメ		○		
ヤセウツボ	○				イロハモミジ		○		
ウスアカカタバミ	○				カスミザクラ		○		
ツボミオオバコ	○				マンリョウ		○		
トウバナ	○				コバノミツバツツジ		○		
トラノシダ			○		ツクバネウツギ		○		
イノモトソウ	○				モチツツジ		○		
サネカズラ		○			エビヅル	○			
ノブドウ	○				ヌカボシソウ	○			
ナガイモ	○				ヤブソテツ			○	
アイノコクマワラビ?			○		アカネ	○			
ヒメワラビ			○		イノデ			○	
タチツボスミレ	○				トホシガラ	○			
アラカシ		○			コウヤボウキ		○		
テイカカズラ		○			キヅタ		○		
ミツバアケビ		○			ツルニンジン	○			
イボタノキ		○			タラノキ		○		
コシアブラ		○			トウネズミモチ		○		
エノキ		○			カキノキ		○		
ノイバラ		○			ナンテン		○		
ヒメコウゾ		○			シュロ		○		
ネムノキ		○			ヤブニッケイ		○		

アカメガシワ		○		キリ		○		
ナガバヤブソテツ			○	ヒサカキ		○		
アオキ		○		ミズヒキ	○			
ケヤキ		○		ヤブガラシ	○			
カラムシ	○			クサイチゴ		○		
フクラスズメ			○	ムクノキ		○		
センニンソウ	○			ヤマウルシ		○		
コナラ		○		ナワシログミ		○		
チチコグサモドキ	○			マメヅタ			○	
カナメモチ		○		ヘクソカズラ	○			
ウワミズザクラ		○		スイカズラ		○		
サルトリイバラ		○		ヤマコウバシ		○		
ヤマハゼ		○		ヒイラギ		○		
ヤブムラサキ		○		オオイタチシダ			○	
マルバアオダモ		○		トウコマツナギ		○		
カエデドコロ	○			イタチハギ		○		
ヒカゲスゲ	○			ワラビ			○	
アセビ		○		ゼンマイ			○	
スギ		○		オオバナニガナ	○			
イヌシデ		○		ノリウツギ		○		
エゴノキ		○		ハネミイヌエンジュ		○		
ツチアケビ	○			ケアクシバ		○		
コバノヒノキシダ			○	シロバナウンゼンツ ツジ		○		
コブシ		○		イワナシ		○		
クマノミズキ		○		ナガバタチツボスミレ	○			
コシダ			○	ウリカエデ		○		
ウラジロ			○	ゴンズイ		○		
オオヒヨドリバナ	○			クヌギ		○		
クリ		○		コゴメウツギ		○		
シャシャンボ		○		ウラジロノキ		○		
トキワトラノオ			○	キウイ		○		
コアカソ	○			アオハダ		○		
オタルスゲ	○			イチョウ		○		
ゲジゲジシダ			○	ニシノオオタネツケ バナ	○			
ミゾシダ			○	ヤマノイモ	○			
クロノキシノブ				キランソウ	○			

ヒメカンスゲ	○			コナスビ	○		
アマチャヅル	○			ヒメイタビ		○	
ウツギ		○		ソヨゴ		○	
メヤブマオ	○			コハシゴシダ			○
サンショウ		○		ヤワラシダ			○
カリン		○		ヒノキ		○	
リョウブ		○		ヤマムグラ	○		
ナナミ (ナナメ) ノキ		○		イヌシダ			○
ヤブツバキ		○		シシウド	○		
イロハモミジ		○		コバノイシカグマ			○
クサギ		○		ヤマイタチシダ			○
ミドリヒメワラビ			○	サワフタギ		○	
ハルジオン	○			ヨシノアザミ	○		
ヒメジョオン	○			ヒメブタナ	○		
オカトラノオ	○			アマクサシダ			○
イイギリ		○		アマヅル	○		
ミヤコイバラ		○		オオベニシダ			○
アゼナルコ	○			セッカニワゼキショウ	○		
フトヒルムシロ	○						

第 438 回例会「金剛山観察会」大阪府千早赤阪村 2023 年 6 月 10 日 <天候不良のため中止>

第 439 回例会「獅子窟寺観察会」交野市 2023 年 7 月 15 日

木村雅行

晴時々曇のむし暑い中、少し心地よい風も吹く夏の観察会でした。JR 河内磐船駅前に集合、天田神社を通り低地配水池前からの獅子窟寺参道の結構急こう配(平均斜度 15%ぐらいとか)の坂を上って本堂までの植物をゆつくりと見て歩きました。

獅子窟寺の参道入口から本堂まで 800m ほどのコースをこの 4 年間で何度も歩いて記録した樹木のリストをお配りしました。樹木(植栽は除く)は 112 種でその内訳は常緑樹が 42 種、落葉樹が 70 種でその比率は概ね 4 対 6、これは北河内において平均的な数値です。樹木の名前をしっかりと覚えようとするなら、冬期に数の少ない常緑樹からまず始めた方が効率的かもしれません。

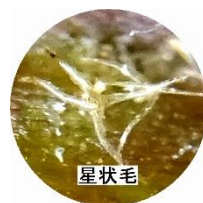
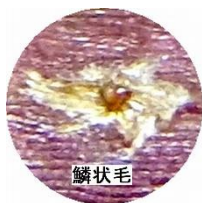
幼木などの小さな葉っぱのフジはナツフジと似ておりその判別に躊躇する場合があります。他にもいろいろな違いもあると思いますが、私は葉を日にかざして葉脈を見比べることが判別材料のひとつとして有効だと思っています。ナツフジと比べるとフジの方が細脈がより細かく見えます。一度見比べてください。



人家に近い林縁などには葉の大きいカナリーキヅタやセイヨウキヅタ(アイビー)の逸出をよく見かけるようになりました。参道の入口付近でも見られたカナリーキヅタは在来種のキヅタに比べると葉は明らかに大きいです。またキヅタと同じく葉は無毛または鱗状毛葉が散生しており生えており、これをルーペなどで確認すると星状毛のあるセイヨウキヅタと区別することができます。



カナリーギツタ 鱗状毛



セイヨウキツタ 星状毛

展望台付近の日あたりのよいところにはマルバアオダモが見られます。マルバアオダモの枝や葉には青色の蛍光物質が含まれており、水に小枝や葉を入れて紫外線ライトを照射するとき綺麗な青色に変わります。是非、家に帰ってお孫さんたちとも楽しんでいただけたらと思います。

参道に生えるムラサキカタバミの葉柄を齧ると酸っぱくて、カンサイスノキの葉も齧るとこれも酸っぱい。アマヅルの葉はほんのり甘くて、アマチャヅルの葉は甘味もあるが苦味もありました。

境内の林縁にキリの幼木が多数見られます。その中で1本の新しく伸びた幹にはひととき大きな葉をつけていました。葉の大きさを測ると葉長が52cmもありました。北河内の地域で最も大きい葉をつける樹木はなんだろうといえ、やっぱりキリかなと再認識しました。



キリの大きな葉



文字がきれいに書ける葉

境内にはお堂よりずっと高いタラヨウの木が1本あります。この付近の山にはタラヨウの幼木はたくさんありますが大きな木にはめったに巡り合いません。タラヨウは葉を傷つけると黒変し文字が書けることで有名です。この参道にも見られるソヨゴはタラヨウと比べると葉は小さいですがもっときれいに文字が書ける葉っぱです。ぜひ試してみてください。

お堂の近くにツガの大木があります。北河内ではカヤやモミの大木も少ないですが、それ以上に少ないものだと思います。枝が伸びてお堂が台風などで被害を被らないようにとの措置であったからでしょうか。最近になって主幹の上部をバッサリと切られていました。秋に果実を拾うのが楽しみでしたが、かなり残念です。

境内に昨年まではあったはずのジュースの自動販売機がなくなりました。値段は結構割高でしたが、夏の冷えたジュースや冬の暖かい缶コーヒーをありがたく思っていました。これも残念のひとつです。

参道から境内までの間を歩いて見られたシダ植物の観察MAPを作ってお配りしました。とりあえず全部で38種。シダが不得意な人は絵合わせでもして参道を歩いて、ひとつひとつ覚えていくのも上達の早道かもしれません。

この近場での夏の暑い日の観察会であったので参加者はごくわずかだろうと予想していました。でも、とてもたくさんの方がご参加いただき、ありがとうございました。(文中の図形はカラーグラビア版にも掲載)

◎参加者：栗田泰子、岩井幸恵、遠藤エチ子、影 千恵子、木村雅行、桑原秀晃、桑原由芽、高見君江、田中英明、田中光彦、長島照文、中野潤子、中町苓子、葉方敦子、発 ひとみ、宇気京子、久保幸子、星田京子、松崎洋三(以上19名)

#### 第440回例会「瀬田公園観察会」滋賀県大津市 2023年8月17日

日下富貴子

酷暑の中、JR瀬田駅より12名、バスで瀬田公園に移動。先ず公園の入口でヒナギキョウに迎えられました。本当に小さくて細い茎ですが凜と紫色のキキョウの超小型の花をつけていました。

公園のパネルの前で田中先生にルートの説明などを受け、池の回りの土手道を歩きました。クロミノニシゴリ(黒実の錦織木)は黒い実をつけていました。湿地や池の周りに生えるとの事。実を噛むとこしょうのような味でした。

しばらく木陰の道を進むと、綺麗な縦に筋の入った網目模様の幹が空高く立っておりました。「アカメガシ

ワ」だそうで良く見かける若葉が紅色のイメージと違いましたが、1m程離れた所にちゃんと子孫を残していました。よく見かける私の知っているアカメガシワでした。

イヌビワが食べられるとは知りませんでした。私の散歩道にあるのですが、初めてよく熟している物を口へ。形も種の多いところも正にイチジクでした。ビワのように甘くないのでイヌビワと云うらしいですが、「イヌイチジク」では駄目なの？と一人思っていました。

土手を下り、池の側の湿地へ行くと、草むらに白い花がそよいでいました。お目当てのサギソウとご対面！！昔、我が家にあった鉢植えのサギソウとは雰囲気の違い、やはり自然の中で風に揺れている様は清々しい気持ちになりました。花の構造をうまく説明できませんが、ラン科の様相である事は納得です。

ミミカキグサ（黄色）やホサキノミミカキグサ（紫色）など見逃してしまいそうな背丈の低い、小さな草花が草むらの中で息づいている事に感動します。

カモノハシ、穂先を二つに割ると、鴨の嘴（はし、くちばし）の様な形になります。イヌノヒゲ（葉先は白）、イヌノハナヒゲ（穂先は茶色）コマツカサススキ（丸っこい穂先がまとまっていて松かさの様）。狩野さんが池から採取されたハリミズゴケの説明をしてくださいました。多量の水を含んでおり、しぼると水が流れ出すこと。葉の細胞には葉緑体を含む部分と光合成を行わない部分があり、交互に並んでいる事、葉の背と腹では並び方が反対であることなど、用意なさっていた図を示して教えて頂きました。ルーペでは判らず顕微鏡でなければ観る事は出来ないそうですが、興味深いお話でした。

オオミズゴケとは出合わずでしたが、いつか機会があるのを楽しみにしています。池の上の木陰で昼食をとり終えた頃、雨雲が拡がり雨になりました。体育館で1時間程雨宿りをしました。軒先の植え込みにフウセンカズラ、フジマメ、キリカズラが咲いていました。

皆さん「これ何？」とすぐに反応される事にさすがと感心します。小雨になったのを頃合いに木道のルートに入りました。大きなシダの緑にうっとりしていると、おっとと滑ります。杖と傘を持ち、段差の強いきつい所は手を貸して頂きながらしっとりとした緑の中を歩きました。

久し振りに例会に参加させて頂きましたが、充実した楽しい一日をありがとうございました。

◎参加者：栗田泰子、稲原ヒサエ、稲原良三、岩井幸恵、遠藤エチ子、狩野登之助、日下富貴子、久保幸子、田中光彦、田中英明、中野潤子、中町芥子（以上12名）

## <投稿> 「大東市でタイワンハチジョウナを確認する」

田中光彦

キク科ノゲシ属のタイワンハチジョウナ *Sonchus wightianus* DC. はヨーロッパ原産の帰化植物で、10年前の2013年に舞洲のあちこちで見たことがある。しかしその後も舞洲や大阪南港など比較的新しい帰化植物の多い地域以外の大阪では見たことがなかったので珍しいと思い記録しておきたい。

タイワンハチジョウナは無毛の大きな根生葉を持ち、株が大きくなると根生葉の切れ込みも大きくなる傾向がある。茎も無毛だが上部の花序のあたりから総苞には赤い腺毛がたくさん生えているのが特徴である。茎の高さは100cmくらいになる。

タイワンハチジョウナがあったのは住道駅からは1kmと少し離れた氷野2丁目の市街地で、近年できたスーパーの前のサツキの植込みに数十株見られた。またその前の車道の隅の隙間にも数株生えていた。さらにそこから約1キロメートル離れた、その道路と直角に交わる赤井1丁目の商店街の歩道の隙間でも1株実をつけていた。それぞれサツキの植込みから種子が飛んで芽を出したものと思われる。

ノゲシといえば、街中の空地、更地、あまり草刈りがされない道端などで必ず見られると言ってもよい、犬や猫の糞と仲良しの植物である。そのノゲシ属のタイワンハチジョウナも温暖化とともにノゲシと同様に広がっていくかどうか興味深いところである。

## 《会員交流コーナー》\*\*\*\*\*

<教えて> § § 2023年5月15日\_新大阪イネ科.jpg 2023年5月15日\_新大阪イネ科2.jpg

2023年5月15日新大阪 JR 宮原区操車場 山陽新幹線線路脇

定規を写し忘れましたが、高さが15センチくらいしかなく、背の低いイネ科？で1株しかありませんでした。

§ § 2023年6月29日天王寺区上八公園.jpg

大阪メトロ「四天王寺前夕陽ヶ丘」近く上八公園花壇脇ウサギアオイにそっくりで、はっていました。花は少し大きく花柄が長いのでウサギアオイでないことはわかりましたが写真を撮り忘れしました。

§ § 2023年7月3日\_神崎川不明種 1.jpg, 2.jpg, 3.jpg, 4.jpg

2923年7月3日初めて見ました。1株だけで園芸種かも。高さ45、6cmくらい 花は5弁、径3cmくらい、雄しべの花糸は紫色の毛で覆われていました。(7/7 北川ちえこ)

<岡田雅彦日本画展>8月8日~13日生駒市芸術会館美楽来(みらく)で開催されました。岡田さんが亡くなって7年が過ぎました。大きい絵も展示されていましたが、岡田さんの絵はサイズが大きいのが多く、家に掛けてもらいやすいように大きい作品の一部を専門家が見て小品になるようにトリミングしたのも展示されました。会期中たくさんの方が見に来られて、小品も家に架けるようにお求め頂いたようです。(8/13 太田理)

◎異動等(敬称略) 退会: 北野政子 ご逝去。ご冥福をお祈りします。(5/9-退会)

編集後記: 立秋を過ぎても北海道ですら猛暑日。この先10月まで熱中症注意とか。地球温暖化とエルニーニョ現象が原因。お互い気をつけましょう。編集や投稿に関して、お気軽にご意見などお寄せ下さい。(太田)

【諸連絡の窓口】 ◇会の代表者・会長: 西畑敬一 072-876-8114

◇会費の納入・会計に関して: 稲原良三 072-892-8507

◇会報の投稿・編集に関して: 太田理 0743-79-9665 会員交流コーナーなども太田宛メールか郵送で送ってください。 ma36ux75ml@kcn.jp 〒575-0013 四條畷市田原台 7-5-2

北河内自然愛好会 年会費 1000円 郵便振替 00970-4-103735

## 目次

第437回例会「星田園地・春の植物」稲原良三-----1 星田園地観察植物-----2

第438回例会「金剛山観察会」<中止>----4 第439回例会「獅子窟寺観察会」木村雅行-----4

第440回例会「瀬田公園観察会」日下富貴子-----5

<投稿>「大東市でタイワンハチジョウナを確認する」田中光彦-----6

会員交流コーナー-----6 異動-----7 編集後記-----7

カラーグラビア版-----別刷 例会案内-----別刷

〔ノブドウ〕 画: 岡田雅彦氏



「ノブドウ」岡田雅彦氏画  
(会報20号より)

